



# リレートーク #191



## 夏休み、テネシーで学んだこと

**鈴木 義幸**

コーチ・エイ  
取締役社長

先日、夏休みを利用して家族で米国テネシーに行ってきました。テネシーは20年前に私が大学院に通った州です。当時から親交のあった写真家である友人宅に1週間お世話になりました。

彼はインド系イギリス人。今はテネシーの大学で写真学を教える傍ら、毎年ハイチに行き、ハイチの人々の写真を撮り続けています。カリブ海の国ハイチは、世界で初めて黒人共和国として独立しました。しかし、独立の際にフランスに対し多額の借金を負ったことが足枷となり、長く貧困にあえいできました。そこに2010年の大地震も加わり、国内は窮状を極めていきます。

そんなハイチで写真家の友人は、自ら写真を撮るだけでなく、小学校の子どもたちにカメラを与え、写真を撮らせています。学校に行き、カメラを配り、「さあ何でも撮ってきて」と。子どもたちは喜々として、外に出掛けて行き、身の回りの事物を写真に収めるそうです。写真家は子どもたちが撮った写真をクラスの壁いっぱい貼り、そして聞きます。

「ハイチの良いところは何？ 悪いところは何？」

子どもたちは、次々に手を挙げてたくさんのお話をしてくれるそうです。そして議論が活発になったところで写真家は聞きます。

「君たちには今、何ができる？」

子どもたちはその議論を通して、つかの間ではあっても、「環境に働き掛ける」ということを学ぶと彼は言っていました。

「環境の犠牲になる」のではなく、「環境に働き掛ける」。

ただ問い掛けてもなかなか子どもたちは話せないそうです。写真を見ながら話すから話せるのだと。

「写真には、人に客観的にものを見せる力があります。その中にどっぷりつかってしまっている状態から、一歩抜け出て、状況を客体視する。そうすると人はたくさんアイデアを思い付くことができます」と彼は言います。

私は経営者をコーチするという仕事をしています。経営者に新しい視点を持っていただき、イノベーションにつながる新しい行動を起こしていただくのが仕事です。彼がハイチの子どもたちに写真を撮ってもらったように、経営者の皆さんに会社の写真を撮ってもらおうかと思っています。部下の顔、オフィスの全景、工場の様子など。会社についてたくさん話してもらって、そして聞きます。

「今、何ができますか？」

きっと普段とは違うアウトプットが経営者の皆さんから聞けるような気がしています。